市民サロン

このページは市民の皆さんが作るページです。短歌、俳句、川柳などの文芸作品や、どんなことでも結構ですので皆さんのご意見をお気軽にお寄せください。
締め切りは毎月１０日です。
あて先は南国市企画課広報統計係（〒783南国市大埔甲２３０１）です。

椿

浜田麗皓さん（大埔）

墨絵サークルに入って三年目。いま「花」をテーマに絵を書いています。私自身花が好きで、家でも花をたくさん育てています。
墨絵はものを見て何かを感じたとき、すぐに書き留めておけるところがいいですね。

母の思い出

池本豊子（大埔）

お正月の朝、目が覚めると枕元に美しい花模様の着物と赤ぬりに表付のポンポン下駄が置いてあった。暗い電灯の下で夜なべをして縫い上げてくれた母の心のぬくもりは今も忘れることはできない。
母はいつも絣の前掛けをし、黒髪を束ね、祖父母によく仕えた。いつもせっせと働く手を止めなかった。祖父母にしかられたときも「私が悪いのですけん」と言っていつも私をかばってくれた母も、五十六歳の若きでこの世を去った。
次々、走馬灯のようにつきない母の思いは、私は母の年より多く生きさせていただいた。母の深い愛と優しい笑顔は今も私の胸に生きております。
昔も今も母への思いは、甘い香りをただよわせる美しい花の心情と思います。
〝母あれば背中に軽き羽ぶとん〟

比江運動場完成余談

「ヤヤッ…、場外ホームラン」

岩本タケオ（金地）

南国歌壇

ふくよかに咲きしトルコを夫と愛で　田村川口久子
よりそうて今生きる幸せ
その昔大逆の名で刑死せし　大埔島光則
往時を偲ぶ秋水の墓
横笛に百舌鳥兼づくりて四羽生れ　甘枝岡林きよ
鳥き所で親は見張れり
春深む生家の墓山に香き日の　岡豊町武樋信子
記憶甦えして柳芽吹ける
夏夏に餌を求ぼむ山鳩の　外山金田初美
背に折りおわくら葉の降る
もう少し生きてほしいと祈りしに　浜改田橋爪昌士子
頷むなしく兄いそぎゆく

南国柳壇

散歩道あちこち変る花粉症　里改田岩崎一子
三百五十五日ジット我慢の桜かな　田村川口岩春
木蓮の花も開きて春の風　里改田田所千枝
雨降るかアマ蛙鳴き天狗ぐ　浜改田溝渕春菜
後見町に閉じる万屋涅槃西風　下野田橋本純子
どしゃぶりの野に三月が横たわる　大埔山崎勝子
雪を来て歓の五感となる水場　大埔山本和子
三春が身に出入りする細雪　国分高村三喜子
北に住む孫大試験終えて来る　比江公文政子
厳始め青の髄まで上が好き　古市長野扇女
雛の面見世の艶を残しけり　比江島田文子
笑みつつに眠る雛子ひな祭り　陣山西岡とみ子
朝市に水こぼし行く見も春　三宅松青天文二

南国俳壇

われらサークル仲間

新たにデビュー！

四月七日の開講式

今回は中央公民館のサークル活動のうち、今年から新しく始まった「話し方教室」におじゃましました。

「話し方教室」は四月七日に始まったばかりのフレッシュなサークルです。練習日は大雍公民館で毎週火曜日の午後七時から九時まで。ＲＫＣ顧問の小椋克巳さんと入交敬之助さんを講師に迎え、約三十人のメンバーが楽しく勉強しています。
抑揚やアクセントなど美しい話し方の方法を小椋さんに、あいさつ、電話の受け答えなど、話の基本的なことを入交さんに指導を受けています。お二人とも経験豊富な方ですので、そのつどの個別の相談にも応じていただけるとのこと。
「あがり性なため、人前で話をするのが苦手で、何とかそれを克服しようと思って」、「言葉は同じことをしゃべっても話し方によってずいぶん受ける印象が違います。少しでも人に優しい言葉がかけられるようになれればと思い」など、入会の理由はさまざま。この日は、自己紹介の仕方の講義のあと、メンバーらが実践練習。普段話すときとは違った緊張した面持ちながらも、なかなかスムーズに自己紹介していました。
メンバーの中には「結婚式での祝辞、息子の結婚式で両家代表のスピーチをしなければいけないが、そのスピーチの仕方を教えてもらいたいで」などという現実的な人もいます。

最後に入交先生が一言。
「話し方教室は良い仲間がいっぱいいて、人間の本当の触れ合いをつくっていくところ。また、話すということはストレス解消にもなるし、健康にもいいです。皆さんの希望はできるだけ取り入れていきたいと思っていますので、どんどんお友達を連れてきて一緒に勉強してみませんか。多くの皆さんの参加をお待ちしています」
連絡先は、会長澤田幸子（☎⑥0546）又は副会長福川萬次（☎⑥2368）まで。

親子クイズ 140

これはなんでしょう

答えについての思い出などもお待ちしています。
◪しめきり　5月10日
◪あて先　〒783　南国市大埔甲２３０１　南国市企画課　親子クイズ係
◪賞品　正解者の中から抽選で5人に図書券を進呈
◎第139回親子クイズの答えは、桜でした。

第140回当選者発表（敬称略）
（応募総数18通）
細川寿万子（十市）
川村正代（下末松）
中村里実（前浜）
土居敏平（十市）
黒岩理香（白木谷）

お便りの中から皆さんの思い出の一部をご紹介します。
◆今年は平年より二、三日早く満開になっているようで、昨年より早く花見をしました。花の下でいただくごちそうのおいしかったこと。いつもより食欲が進んで、また太ってしまいそうな花見でした。
◆わたしは長く中国で生活しましたが、桜は杏の花と異なってふくよかで、異国では最も懐かしく郷愁を誘う花です。
◆この前、花見に行ってきました。親族一同で行ったのですが、みんなべろんべろんに酔ってしまい、公衆の面前でおどりだす始末。恥ずかしいやら、情けないやら…。でも久しぶりに痛快な気分でした。
◆今年は雨ばかりで、散ってしまうのではないかと心配していましたが、なんとか晴れたのでその晴れの合間に夜桜見物に行って来ました。ぼんぼりが桜を照らしてたいへんきれいでした。来年も行きたいと思います。
◆今年は八王子の夜桜を楽しんで来ました。ボンボリに浮かび上がった満開の花の下で、ひとときを幸福な気分を味わいました。鎮野公園に「御衣黄」と言う名前の緑色の桜があります。ご存じですか。